

中川村議会 令和6年9月定例会一般質問（9/10） 長尾和則

○4 番 （長尾 和則） 私は、さきに提出しました通告書のとおり、大きく2項目について質問をさせていただきます。

最初の項目としまして「中川村地域活性化ビジョンについて」質問をいたします。

2023年——昨年10月16日の議会全員協議会において地域政策課から概要説明がありました中川村地域活性化ビジョンは、計画期間が2023年4月から施策が総合戦略に組み込まれるまでとなっております。

総合戦略とは、現在展開中の第2期まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略の対象期間である2025年3月31日を経過した後の総合戦略、いわゆる第3期まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略のことと推測いたしますが、村は次期総合戦略の目標値を第6次総合計画後期基本計画に組み込むことを既に表明されています。

この点につきましては、私が昨年9月定例会の一般質問の場で提案いたしました総合計画と総合戦略の一本化、これを酌み取っていただいたものであると思います。

このことを実施することで村民の皆様から見ても2025年から向こう5年間の村の総合的なプランが見やすくなると思いますし、併せて後期基本計画の数値目標と総合戦略の重要業績評価指標、いわゆるKPIの整合性がはっきりすると思いますので、この判断に至った担当課には敬意を表したいと思います。

本論に戻りますが、したがいまして中川村地域活性化ビジョンの具体的な方向性、目標値、実施施策等は後期基本計画の中に示されることになるかと思えます。

中川村地域活性化ビジョン——これからはビジョンと表現いたしますが——ビジョンは2021年度に村外法人に委託して作成した中川村地域経済循環に向けた調査分析業務報告書を基に同一の村外法人により2022年度に策定され、村は成果品を2023年3月に受領したものと承知しております。事業費は2022年度決算報告で示されたとおり323万4,000円となりました。

昨年10月の議会全員協議会の席でビジョンの概要について説明を受けた際には、議員各位から厳しい指摘や意見が多く出されました。

中川村の今後の地域経済の維持、発展に向けて根幹となるビジョンであることから、我々議員はもとより、多くの村民関係者の声を吸い上げ、実のあるものにする必要があると私は考えます。

質問の1点目です。ビジョンの概要説明を受けた昨年10月の全員協議会から既に1年近くを経過していますが、その間、その席で出された我々議員からの指摘、意見に対する村の考え方が示されていないのはなぜか、担当課にお聞きいたします。

○地域政策課長 ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

全員協議会の際には、議員の皆様から、課を横断的に考える必要があるため外部からの人材の検討をとの御意見や一つの手法として議論していくのが重要であるという点、また分析データやビジョンの使い方の検討が必要、農業だけではなく、ほかの産業とも議論すべきとの御意見をいただきました。

地域活性化ビジョンについては、今、議員のおっしゃったとおり、前年度に行いました地域経済循環分析において、農業は地域経済を支える重要な産業であり、産業振

中川村議会 令和6年9月定例会一般質問（9/10） 長尾和則

興に当たっては農業が外貨獲得や地域内取引の拡大を図ることに有効との考えから、農業を軸とした地域経済循環の各種施策について示しているものであります。

また、ビジョンは単に農業生産にとどまらず、飲食業、製造業、観光業など他の産業との連携により地域内での経済循環を生み出すことの必要性を示しているということであります。当然、他の産業も重要であり、農業が村を支える主要産業として一点突破するとの意味合いではなく、あくまでも一つの材料として捉えております。

関係者との協議、説明ができていない状況は反省すべきところかと思っております。

稼ぐ力の可能性を持つ農業が今後の地域内の経済循環の一助となるよう関係者と議論し、現第2期まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略の総括を踏まえまして、今年度策定する総合計画基本計画に継承していくことと考えております。

○4 番 （長尾 和則） 今年度、これからの後期基本計画の審議会でもんでいくということかと思えます。

反省点というふうにおっしゃっていただきましたけれども、やはり1年間何ら説明がなかったというのは反省していただきたいところであります。

そんな点で付け加えますと、昨年12月定例会の一般質問の場で5番議員からこのビジョンについて「内容は農業活性化計画のようなもので、そもそもこれを地域活性化計画として提出すること自体に違和感があります。」という指摘がありました。それに対する村側の回答では、農業の経済活動を中心にビジョンとして策定したため違和感があったと感じているという発言がありました。

ならば、やはり村の根幹に関わるビジョンですので、村外法人のつくったビジョンを基に、我々自身でもっともんでいく必要があると考えます。そういった意味を含めて2点目の質問に移ります。

こういった形となったビジョンは、民間会社でいえば事業戦略です。こういったものは、ことわざでいう「仏作って魂入れず」では非常にまずいと思います。仏に魂を入れるためには、多くの人の意見を聞いて、また取り入れながら、改善を積み重ねて試行錯誤しながらビジョンを形にしていく、こういう姿勢が非常に重要であると考えます。

そういった意味で、ちょっと先ほどの回答の中で課長が若干触れられたかもしれませんが、もう一度聞きますが、ビジョンを議員以外の村内関係者に説明されたのか、されたとすればその場ではどのような意見が出たのか、お聞きします。

○地域政策課長 このビジョンにつきましては、理事者、議員の皆さんへの説明のみとなっております。

先ほどお答えしたとおり、現在の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括を踏まえて今年度策定する時期の計画に継承していくことと現在は考えておまして、その中の該当分野で説明を行い、議員のおっしゃるように、自分たちの計画、方向としてもんでいきたいと、そういった考えであります。

○4 番 （長尾 和則） やはり、これからしっかり後期計画の場でもんでいくということですね。そういった意味で、これから申し上げることをぜひ御検討いただきたいんです

中川村議会 令和6年9月定例会一般質問（9/10） 長尾和則

が、先ほど課長もおっしゃいました、このビジョンは今後の村の地域経済に大きく影響するわけです。第6次総合計画の後期計画に組み込む際には、後期基本計画審議会の中に地域活性化ビジョン検討部会を設け、しっかりとビジョンを煮詰めた上で後期計画に盛り込むことを提案します。

やはり審議会は大変広い分野にわたって検討いたしますので、先ほどのビジョン、これを一緒にするとどうしても薄まってしまうことはもう明白であるかと思えます。ぜひこういった部会を設けて、産業の根幹となる計画はしっかりもんでから審議会に提案するというのを提案しますが、いかがでしょうか。

○地域政策課長 令和3年度に策定しましたこのビジョンにつきましては、経済循環分析において導き出された外貨獲得の力のある農業を軸とした経済循環についてのビジョンを示したものであります。

後期基本計画策定に当たりましては、各分野でのワークショップや懇談会の中で説明をしながら、ほかの産業も含めて意見収集に努めていく考えではあります。

議員の提案を参考に検討させていただきますが、地域活性化ビジョンだけの部会というよりは、各部会の検討会の中、特に農業分野等ではありますが、専門的識見を有する方やその分野の事業者、関係者などからの意見収集に努めていきたい考えであります。

このビジョンについては、基本計画という産業・経済分野の農林業の振興の部分を中心に説明をさせていただきたいというふうに考えております。

○4 番 （長尾 和則） 農林業の部門で検討していく、内容から見てそういうことになるんでしょうね。

ただし、2年度にわたってかなりの費用をかけたビジョンであります。お金をかけたからということではありませんが、それだけしっかり費用をかけたものは、ほかの施策とあんまり一緒にせずに、やはり、それはそれで、しっかりあれをベースに農林業の部分をもんでいくべきだと考えますので、ぜひそういった点を要望しておきたいと思えます。

それでは大項目の質問に移らせていただきます。

「公民館分館活動の活性化について」、教育委員会に質問をいたします。

まず中川村公民館の歴史を振り返ってみたいと思えます。

中川村の公民館活動は戦後間もなく南向村公民館、片桐村公民館として発足し、その後、中川村が誕生した昭和33年に中川村全域を区域とする中央公民館及び東公民館と西公民館となり、平成2年の村社会体育館の完成を機に公民館事務局を社会体育館事務室に移転統合し、東西の公民館を発展的に解消して中央公民館を土台に新しく中川村公民館として発足したわけでありす。

一方、公民館活動をより地域に密着したものとするために、それぞれの地域に分館が置かれました。東公民館では、昭和34年当時、29地区をグループ化して第1分館～第6分館とし、その後、再編成して飯沼、美里、中部、大草、桑原、葛島の6分館とし、西公民館では小和田、竹ノ上地区が一緒の分館となったほかは地区ごとの分館

中川村議会 令和6年9月定例会一般質問（9/10） 長尾和則

として12分館の構成となりました。中川村公民館発足後もこの分館の構成は引き継がれ、現在も18の分館が存在します。

長野県は公民館活動が活発な地域とされており、中川村においても過去から現在に至るまで本館が主催する各種の活動が活発になされるとともに、分館においても独自の活動を展開してきております。

ちなみに、長野県の公民館数、これは中川村でいう分館規模の数ですが、これが1,802館あるそうです。この数は断トツの全国1位の数で、第2位の埼玉県の489館、これを大きく引き離しております。この数値だけ見ても長野県の公民館活動のすごさが分かるかと思えます。

また、公民館活動は、本来は社会教育を推進する場であったものが、最近では地域活性化を目的とするイベント等も行われ、活動の場が広がっております。

中川村公民館においても本館主催である文化祭やバレー祭、金魚すくい選手権など、活発なイベントが行われ、村民同士の有意義な交流が広まっていることは大いに評価できるものだと思います。

昨年12月の定例会一般質問の場において5番議員が地域活性化について触れ、地域活性化とは経済活動、文化活動に住民が生き生きと取り組んでいる姿そのものだと述べられましたけれども、私も全く同感でございます。

一方、地域活性化という視点で見るときに、大草、片桐、葛島の各地域の活性化委員会は平成2年に予算90万円をもって発足し、夏祭りの開催、陣馬太鼓の立ち上げ、県外他地域との交流等、それぞれ独自の活動を継続しましたが、時間の経過とともに活動が縮小し、現在では片桐地区が片桐財産区の一機関として活性化委員会を設けているのみとなっております。

その視点で見ますと、公民館の分館活動が中川村の地域活性化に寄与する度合いは以前に比べて比重が高くなっていると言えるかと思えます。

質問の1点目です。

現在の公民館分館活動の実施状況について教育委員会ではどのように評価しているのか、お尋ねをいたします。

○教育次長 議員のおっしゃるとおり、村内の分館につきましては、数地区が一つになった分館ですとか、あとは地区単位での分館等がありまして、それぞれの規模ですとか活動内容も様々でございます。

少子高齢化ですとかライフスタイルの変化などで地域の状況が変化中、地域の皆さんの学習、交流、あとは親睦を深める機会としまして、各分館で工夫を凝らしながら次世代育成ですとか健康づくり、あとは伝統文化の継承など、各種事業を実施していただいております。そういった面からも地域づくりの一翼を担っていただいております。教育委員会としても大変感謝をしておるところでございます。

○4 番 （長尾 和則） 分かりました。

文化センターへ行きますと、入り口のところに各分館の分館便りっていうんですか、

掲示されておりますね。あれを時々拝見するんですけども、やはり立派な活動をしておる分館があると思う一方で、私の地元も含めて、ちょっと残念だなという分館もあることは事実だと思います。そういったままだら模様であることは、今、次長がおっしゃったとおり、現実なのかなと思います。

過去と比較して人口が減少し、分館によって今言ったように活動状況がまだらな状況、これを鑑みて、分館を再編成して分館長及び主事等の主要役員を複数年の任期とした上で一定程度の権限と報酬を付与し、ボトムアップ的な文化活動をさらに推進することによって地域活性化を図ったらどうかと考えますが、教育委員会の御見解をお尋ねいたします。

○教育次長 分館活動につきましては、様々な行事を自主運営している分館から、主な活動が村の公民館ですとかスポーツ団体連絡協議かですとか文化団体連絡協議会等の団体主催の行事への参加のみとなっているような分館もありまして、分館によって活動量に差があるのは事実であります。

先ほど申しましたが、少子高齢化ですとかライフスタイルの変化ということで、分館活動への参加者の減少ですとか役員の担い手不足というところは否めないというところであります。

分館を再編しまして分館長、主事等の主要役員を複数年の任期とした上で一定程度の権限と報酬を付与との御提案をいただきました。

将来的に分館の再編は必要になってくるものと考えておりますが、トップダウンで実施するものではないとも考えております。

公民館につきましては、議員も御承知のとおり、公民館活動を審議する公民館運営審議会ですとか、分館役職員の会議では分館長会ですとか主事会、あとは社会文教部員会と体育部員会等がございます。まずはそのような場で議論を始めていくことが必要ではないかと考えております。

小さな分館の中では人材に苦慮している状況もある中で、小さな分館から大きな分館になったときには、役員の対象となる人数は増えるんですけども、その中で担ってもらえる人材が出てくるかというところがポイントになってくると思います。主要役員の権限と報酬を上げることで我こそはという方が手を挙げてくれればいいんですが、なかなか難しいのではないかと考えるところでもあります。

分館の在り方について議論を進めていくのに合わせて人材の育成も進めていく必要があるのではないかと考えております。

○4 番 （長尾 和則） 実は、今年6月6日の夜に今年度の分館役職員研修が行われましたよね。今年度は初めての取組として村の地域の課題や生活、暮らしの課題などについてみんなで考え学び合う場として開催されて、各分館から53名の方が出席されたとお聞きしております。有意義な話合いができたんだと思います。

この取組自体を否定するものではないんですけども、分館役職員全員が集まる機会っていうのは4月の分館役職員総会と今言った研修会だけということになるかと思えます。そういった貴重な機会ですので、今、次長がおっしゃったように、各分館の

現状、それから、先ほども言いましたけれども、ボトムアップ的な地域活動の活性化を考えますと、まさしくこういった全員が集まる場で分館活動の将来について話し合うのが本筋ではないかと思えます。

確かに、次長がおっしゃるとおり、トップダウンで進めるよりも、こういった場で数年かけてもんで徐々に形にしていく、これが理想的かと思えますので、ぜひこの点を考慮いただいて、この場で言うのがいいか分かりませんが、来年の研修会では、ぜひそういった点をテーマに取り上げていただけるとよろしく願いますので、要望をしておきます。

次の最後の質問に参ります。

新たな学校づくりの基本方針の一つであるオール中川で地域が学校と連携して子どもたちの成長を支え育てる仕組みをつくるとの考え方にも分館の再編成は親和性があると私は考えます。

すなわち、新しい分館の公民館活動によって生じる様々な成果を新しい学校とリンクさせるとともに、子どもたちの分館活動への積極的な参加を図ることにより今まで以上に愛着を感じてもらえると考えますが、教育委員会の御見解をお尋ねいたします。

○教育次長 新たな学校につきましては、地域と学校が連携、協働して子どもたちの学びを支え育てる体制や活動を目指しておりまして、様々な方法で地域と学校がつながってけるとよいと考えます。

新しい分館の活動によって生じる様々な成果というものがどのようなものになるかはちょっとまだ分からないところではありますけれども、新たな学校との連携によりまして子どもたちが今まで以上に地域で活動して、そして愛着を感じてもらえるような取組となってけるとよいと考えております。

○4 番 （長尾 和則） 分かりました。

今まではあんまり公民館の分館活動にスポットを当てたっていう話題はなかったかと思うんですが、先ほど私が申し上げましたけれども、公民館活動自体は、担当者の方の御努力をはじめ、館長さんをはじめとする方々のリーダーシップによって、本館行事は非常に活発にされておるかと思えます。この点は高く評価できるかと思うんですが、やはり草の根的な分館の活動っていうのには、ちょっと今まではスポットが当たっていないような気がしますので、再編成も含めて、そんな点もぜひ今後は御検討いただけたらと思います。

以上で私の質問は終わります。